第44回 内科学の展望

1 2 3 4 5

まとめ

茶山 一彰

Key words ウイルス感染症, 日常診療, グローバル化

今回の講演会では内科医が知っておくべきウイルス感染症を取り上げた。2003年にSARS (severe acute respiratory syndrome) virusの恐怖が私たちを襲ってからすでに10年以上になる。ウイルスはこのような忘れた頃に突如私たちの生活を脅かす。今回の「内科学の展望」では内科領域におけるウイルス感染症, ウイルス感染症に対する最新の知識と知見というテーマで講演会を行った。セッションIでは注目すべき新興ウイルス感染症として, エボラ出血熱, MERS (Middle East respiratory syndrome), 鳥インフルエンザを取り上げた。このような疾患は日本では滅多に遭遇することはないが, グローバル化に伴い, 感染多発地区を旅行した後に日本で発症する症例がある可能性がある。このため, それらの実態を理解し, 万一の遭遇に備える必要がある。また, 致死率の高い疾患であることから, 万一患者が発生した場合の対策を日常的に講じておき, 時には実際の訓練も行っておく必要がある。セッションIIでは逆に日常遭遇す

ることの多いウイルス感染症として, 肝炎ウイルスの感染を取り上げた。持続感染するB型肝炎ウイルス, C型肝炎ウイルスの病態と治療について, また, 持続感染は起こさないが, 稀に劇症肝炎の原因として重要であるA型肝炎, E型肝炎ウイルスについても取り上げた。このうち, C型肝炎ウイルスに対する最近の治療は進展がめざましく, インターフェロンを使用しない, 内服薬のみの治療で90%以上の治療例がウイルス学的に治癒することを内科医は理解しておく必要がある。B型肝炎ウイルスに関しても, 核酸アナログの投与で良好なウイルス増殖の抑制と肝炎の沈静化が得られる。しかし, C型のウイルス排除後, あるいはB型の良好なウイルス制御下においても, 肝発癌のリスクがなくならないことを忘れてはならない。セッションIIIでは日常診療で注意すべきウイルス感染症として, 重症熱性血小板減少症候群, デング熱, HIV (human immunodeficiency virus) 感染症を取り上げた。重症熱性血小板減少症候群はダニに刺

広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門消化器・代謝内科学

 The 44th Scientific Meeting : Perspectives of Internal Medicine ; Virology for physician～recent advance in viral infection and treatment～ ; 5. Conclusion.

Kazuaki Chayama : Department of Gastroenterology and Metabolism, Applied Life Sciences, Institute of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University, Japan.

されることにより感染し、DIC (disseminated intravascular coagulation) を伴う激しい症状を呈する。致死率が高い疾患であることから、病歴、全身のチェック（刺創の有無）を通じて正しく診断し、治療する必要がある。デング熱はネッタイシマカなどに刺されることにより発症するため、蚊の駆除が重要になる。タイプの違うウイルスに複数回感染すると重篤な病態を生じることからも、この対策が重要である。HIVは感染の増加傾向はやや鈍ってきたものの、AIDS (acquired immunodeficiency syndrome) を発症してから受診する症例も多く、知識の普及による感染の拡大防止を図り、早期発見、早期治療へと導入する必要がある。これらのウイルスは日本でも時々みられる疾患であり、内科医

としては必ず知っておかなければならない感染症である。

このように、ウイルス肝炎の感染、病態、治療の状況は刻々と変化しており、また、突然我々の目の前に現れるものである。知識を得て備えるのに、この講演会が役立つことを祈念している。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：茶山一彰；講演料（味の素ファルマ、アステラス製薬、アッヴィ、アボット、MSD、吉利アド・サイエンシズ、大日本住友製薬、田辺三菱製薬、中外製薬、 Bristol・マイヤーズスクイヴ）、研究費・助成金（大日本住友製薬、田辺三菱製薬、東レ、ヤンセンファーマ）、寄附金（味の素製薬、アッヴィ、エーザイ、MSD、大塚製薬、第一三共、大日本住友製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬、中外製薬、東レ、日本化薬、Bristol・マイヤーズスクイヴ、ロッシュ・ダイアグノスティック）